

## 2021 年度 人文学類授業評価アンケートについて

人文学類 FD 委員会

人文学類 FD 委員会では、2021 年度に実施された授業評価アンケートの結果を公開いたしますとともに、問題点や課題を明らかにすることで、人文学類における今後の授業改善に向けて役立てていただきたいと思います。

以下の表に記した数値は、総回答者による各選択肢の回答比率を示します（合計値 100%、まるめの誤差のため合計が 100%にならない場合がある）。最も割合の大きい選択肢をグレーで強調しています。また、「平均得点」は各解答欄の選択肢の番号（1～4 もしくは 1～5）を評価点とみなして計算した場合の平均を示します。

なお、前年度と比較する場合、2020 年度のデータには、コロナ対応の関係で第 1 Q の授業科目が含まれていないことに留意されたい。

対象学期：2021 年度（第 1Q～第 4 Q）

対象科目数：人文学類専門科目 142 科目

総受講者数：5,901 名

総回答者数：713 名（回答率 12%） 昨年度とほぼ同じ

問 1. 授業への出席状況は、どの程度ですか。

(4) 皆出席	75.9%
(3) 1～2 回欠席	20.1%
(2) 3～4 回欠席	1.3%
(1) 5 回以上欠席	2.8%

平均得点 3.69 （2020 年度 3.77）

「(4)皆出席」と「(3)1～2 回欠席」を合わせると 96.0%とたいへんに高い割合となっており、全体として高い出席率となっている。前年度、平均得点は 3.31 から 3.77 に大幅に上昇したが、2021 年度はその高い水準を維持している。ただし、皆出席は 7 ポイント減少している。オンライン授業によっては授業への出席状況が悪化することが生じていないことが確認できる。

問2. 1回(90分)の授業のために行った予習・復習(授業中に出された課題を含む)の時間は平均してどの程度ですか。

(5)	3時間以上	2.2%
(4)	2時間以上3時間未満	5.5%
(3)	1時間以上2時間未満	23.3%
(2)	30分以上1時間未満	42.2%
(1)	30分未満	26.8%

平均得点 2.14 (2020年度 2.49)

2019年度は、「(1)30分未満」が4割を超える値であり、「全体に予習・復習の時間が不足している傾向は否めない」との評価であったが、2020年度は予習・復習の時間が大きく改善した。この傾向が2021年度も維持された。しかし、全体に若干低下している傾向にある。

問3. シラバスはこの科目の選択や学習中のガイドとして参考になりましたか。

(5)	大変参考になった	23.1%
(4)	ある程度参考になった	68.2%
(3)	あまり参考にならなかった	4.1%
(2)	まったく参考にならなかった	0.4%
(1)	シラバスは見えていない	4.2%

平均得点 4.06 (2020年度 3.96)

「(5)大変参考になった」「(4)ある程度参考になった」を合わせると9割以上が、シラバスが参考になったとしている。2020年度よりも大きく向上している。科目選択や学習においてシラバスが一定の役割を果たしている。オンライン授業が一定数あっても、「(1)シラバスは見えていない」とする回答が4.2%あるのは、前年度同様であり、選択するコース等での必修科目などについては、シラバスを見なくても履修することになるためかもしれない。

問4. 全体を通じて授業内容をどの程度理解できましたか。

(4) よく理解できた	30.7%
(3) ほぼ理解できた	60.6%
(2) あまり理解できなかった	8.4%
(1) 全く理解できなかった	0.3%

平均得点 3.22 (2020年度 3.10)

「(4)よく理解できた」「(3)ほぼ理解できた」を合わせると全体の9割以上が、授業内容が理解できたと回答しており、2020年度に比べてさらに向上している。授業内容の理解度はたいへんに高いと言える。オンライン授業をミックスして、これまで以上の理解度を達成することができたと言える。

問5. 授業のスピードは適切でしたか。

(5) 速すぎた	0.8%
(4) やや速すぎた	8.4%
(3) 適切であった	86.1%
(2) やや遅すぎた	4.5%
(1) 遅すぎた	0.1%

平均得点 3.05 (2020年度 3.09)

「(3)適切であった」が全体の8割以上となっており、授業のスピードについては全体としておおむね適切であったと言える。前年度よりもさらに良好になっている。

問6. 授業で用いた参考資料（テキスト・配布資料等）は、授業内容を理解するうえで適切でしたか。

(4)	十分に適切であった	49.6%
(3)	ほぼ適切であった	46.0%
(2)	あまり適切でなかった	3.8%
(1)	全く適切でなかった	0.6%

平均得点 3.45 (2020年度 3.40)

「(4)十分に適切であった」「(3)ほぼ適切であった」を合わせると95%以上が適切だったと回答しており、前年度に比べてさらに向上した。授業における参考資料の使用については全体として適切であったと言える。

問7. 授業の水準はあなたが期待しているものから見てどうでしたか。

(5)	期待していた水準よりも高かった	16.8%
(4)	期待していた水準よりもやや高かった	29.3%
(3)	期待どおりの水準だった	50.1%
(2)	期待していた水準よりもやや低かった	3.2%
(1)	期待していた水準よりも低すぎた	0.6%

平均得点 3.59 (2020年度 3.63)

「(3)期待通りの水準だった」が半数を占める。一方で「(5)期待していた水準よりも高かった」「(4)期待していた水準よりもやや高かった」の合計が46%ほどで、全体に学生にとっては期待していた水準よりも（やや）高めの水準の授業内容と受け止められている。しかし前年度と比べると、「期待通りの水準」に回答が集まっており、これは2019年度から続く傾向である。

問8. 授業内容に興味が持てましたか。

(4) 非常に持てた	46.0%
(3) まあ持てた	47.5%
(2) あまり思わない	5.5%
(1) 全く思わない	1.0%

平均得点 3.39 (2020年度 3.33)

「(4)非常に持てた」「(3)まあ持てた」を合わせると9割以上の学生が授業内容に興味を持てたと回答しており、全体として学生の興味や関心に答える授業が行われていることがわかる。前年度からさらに向上している。

問9. 授業は知識や視野を広げるものでしたか。

(4) 非常にそう思う	55.7%
(3) まあそう思う	40.3%
(2) あまり思わない	3.2%
(1) 全く思わない	0.7%

平均得点 3.52 (2020年度 3.51)

「(4)非常にそう思う」「(3)まあそう思う」を合わせると95%以上が授業は知識や視野を広げるものだったと回答している。前年度とほぼ同じ傾向である。知的な刺激という面で、全体として、学生からのたいへん良い評価を得ているとみなせる。

<まとめ>

以上の2021年度授業評価アンケート調査結果をふまえると、人文学類の専門科目の授業は、前年度と同様、あるいはそれ以上に、授業内容への関心および授業の理解度などについて全体に高い評価を得ている。シラバスの記載や授業のスピードも良好になっている。出席や、予習・復習などの学生の授業時間外学習については、若干低下しており、工夫が必要であると思われる。特に時間外学習については、課題の出し方などのノウハウを共有するなどができると思われる。

コロナ感染拡大対応のためにオンライン授業の形式が導入され、2年目となったが、授業理解、進行速度、教材、水準、興味、知識や視野の拡大という諸点で前年度と変わらず、良好な評価が得られたことは重要である。遠隔授業についてそのメリットを生かし、うまく対応ができたと言えるかもしれない。しかし、アンケート自体の回収率の問題もあり、この結論は決定的ではない。継続的な点検・確認が重要であるだろう。